

市庁舎建設特別委員会発足 …市議会も執行部と共に論議

国の耐震基準を満たしていない現在の市庁舎について、9月定例会での市長の市役所移転発言をきっかけに、市議会として12名（川口も委員のメンバーとなりました）からなる特別委員会を設置することになりました。市庁舎の建設は市民や議会においても大きな関心事となっていますが、川越市のまちづくりや地域経済にも及ぶ大きな問題です。

現在市では、右図の市有地を候補地としていますが、建設位置も含め、下記の事項について審議していく予定です。

- ① 現市庁舎の現状について
 - ② 市庁舎の機能について
 - ③ 市庁舎の建設位置と周辺対策について
 - ④ 市庁舎建設事業にかかる経費について
 - ⑤ その他



シリーズ環境問題 ③・・・バイオ燃料

今回は近年注目のバイオ燃料を取り上げます。バイオ燃料は主にトウモロコシ、サトウキビ、小麦、植物性油(バイオディーゼル用)などの植物から作るアルコール系燃料で、ガソリンの代わりとしてCO₂が増えないと理由で、地球温暖化対策のエースのような扱いも見受けられますが、事はそう簡単でもなさそうなのです。

最近の食料品の高騰は、食料品として輸出されてきたこれらの原料が、燃料として取引されるようになり価格が高騰してきました。原料の生産者にしてみれば、畑が油田に変わったようなものです。アメリカやブラジルなどは国を挙げてバイオ燃料への転換を図っており、これまで他の作物を作っていた生産者も、バイオ燃料で使用するための作物へ転作をするケースも出ています。

また、深刻なのが、バイオ燃料の

原料であるトウモロコシ畑などにするための森林伐採です。南米やアジアで多くの森が切り開かれ、日々畑に変わっています。CO₂を減らすためという理由で森林伐採が進む現状を皆さんはどう考えますか？

温暖化防止効果についても、森林伐採、原料輸送、プラント建設、生産から使用までをトータルで考え、効果を検証する必要があります。最近ノーベル賞化学者が、バイオ燃料は地球温暖化防止に貢献しないという研究報告を発表しました。CO₂の310倍の温室効果があることで知られる亜酸化窒素が一般的な燃料の2倍排出されることが理由だそうです。

夏の洞爺湖サミットでは、バイオ燃料についても、森林伐採に対する規制や生産者の労働環境の問題、植物性廃棄物の利用など、日本から新たな提案がされることを期待しています。

☆ 昨年の議会報告会の中で、私の一般質問について録音テープを使い説明をさせて頂きましたが、川越市ではこのテープの取り扱いについて、公式の議事録ではなく、議事録作成のための補助的なものであるため、本人の確認以外の使用はされておりませんでした。そのため昨年の議会運営委員会で注意を受けました。申し訳ございませんでした。今後の議会報告会は、口頭でのご報告となりますことをご了承下さいますようお願い致します。